

見つけに行こう！ 東海村の桜

Tokai village Sakura MAP



今年の春、歴史と未来の交流館では、春季企画展「さくら色・いろーみんなのさくらー」が開催され、東海村のサクラマップ「見つけに行こう！東海村の桜」が発行されました。

今回は、マップの作成に携わった安嶋隆さん(歴史と未来の交流館博物館長)と古平均さん(ひたち太田生物友の会)のお二人に、その想いを取材しました。

【問い合わせ】地域戦略課広報
・シティプロモーション担当
(☎282-1711 内線1339)

／ 私たちが作成しました！ ／



▲古平均さん ▲安嶋隆さん

東海村はサクラの名所！

皆さんは、村内にどれくらいのおサクラが分布しているかご存じですか。この春、約20種類、数え切れないほどの数のサクラが村内各地で咲き誇りました。

例えば、桜餅に使用される「オオシマザクラ」などの自生種は、海岸沿いなど昔ながらの自然豊かな場所
で、「枝垂桜」などの園芸種は、公園や学校などの公共施設で多く見られます。

「東海村のサクラの特徴は何ですか？」とお二人にお聞きしたところ、「東海村の特徴は東西・南北とも約8キロメートルのコンパクトさにあり、歩いていける場所で、多種多様なサクラを見られることだと思えます。皆さんにも自分だけのお気に入りスポットがあるのではないでしうか」とお答えいただきました。

染井吉野の魅力に迫る

サクラと聞いて皆さんが思い浮かべるのは「染井吉野」ではないでしょうか。

染井吉野は、満開時に、木全体が桃色一色に染まる点が特徴の園芸種です。全国各地で愛されている品種ですが、実はつけず、接ぎ木などの人工的な方法でしか増えません。そのため、全国の染井吉野は、同じ遺伝子を持つクローンであり、同じ特性を持っているからこそ、気候に応じて北上する「桜前線」の予測が成り立つそうです。村内では、阿漕ヶ浦公園や学校、公共施設など多くの場所で見られることから、卒業・入学などの節目やお花見など、春の訪れを告げるサクラの代名詞となっています。

そんな染井吉野には、もう一つの特徴があります。毎年見事な花を咲かせる一方で、病気に弱く、約100年しか生きられない宿命を持っていることです。

サクラマップに込めた想い

お二人が作成したサクラマップには、時間をかけて集めた村内のサクラ情報が詰まっていますが、まだ完成していないそうです。皆さんぜひ、「ここにも咲いているよ！」「こんな種類も咲いているのでは？」といった情報をお寄せください。

そして来年の春は、バージョンアップしたサクラマップを片手に、ちよつとだけ染井吉野の次代を担うサクラに想いを寄せながら、村内を歩いてみてはいかがでしょうか。

■サクラや植物などの情報はこちらへ

生涯学習課博物館・文化財担当(歴史と未来の交流館内 ☎287局0851)

二人のおすすめ♪ 東海村のサクラスポット

皆さんのお気に入りのサクラスポットはどこですか。サクラマップを見て調べてみましょう。※サクラの名称は、自生種をカタカナ、園芸種を漢字で表記しています。

【石神城址公園】

例年の見頃▼3月下旬～4月上旬
サクラの種類▼染井吉野



【久慈川河川敷運動場 周辺】

例年の見頃▼3月下旬～4月上旬
サクラの種類▼陽光



【船場区自治会集会所】

例年の見頃▼4月中旬～下旬
サクラの種類▼いろいろな八重桜



東海村のサ
クラマップも
掲載中！

note

取材の詳細は、東海村スマホクリエイターズLab.のnoteでも公開しています。

